RIKKYO UNIVERSITY
Contemporary Psychology

2019
Department Guidance

立教大学
現代心理学部
心理学科／映像身体学科

Contents

もくじ

学部長メッセージ Message 02

現代心理学部 Introduction 03

心理学科 Psychology 05
- 心理学科とは Introduction 05
- カリキュラム Curriculum 06
- 学生紹介 Student 06
- 授業 Class 07
- トピックス Topics 08
- フォーカス Focus 08
- 進路 Course 09
- 卒業生 Graduate 09
- Q & A Q & A 09
- 専任教員 Staff 10

映像身体学科 Body Expression and Cinematic Arts 11
- 映像身体学科とは Introduction 11
- カリキュラム Curriculum 12
- 学生紹介 Student 12
- 授業 Class 13
- トピックス Topics 14
- フォーカス Focus 14
- 進路 Course 15
- 卒業生 Graduate 15
- Q & A Q & A 15
- 専任教員 Staff 16

海外体験プログラム / キャリア支援のお手伝い Study Abroad / Career Support 17

施設紹介 Facilities 18

Message

学部長メッセージ

現代心理学部は、2006年に開設された新しい学部です。すでにこの学部から多くの学生が巣立ち、社会のさまざまな分野で活躍し、それぞれの人生を歩んでいます。

本学部は、心理学科と映像身体学科の2学科から構成されています。いずれの学科も、私たち人間の思考する「心」、活動する「身体」、そして現代人に計り知れない影響を与えている「映像」（あるいは知覚の中心たる「視覚」）の三つをメインテーマとしています。こうした2学科の探求は、21世紀に相応しい新たな人間学の創出を目指しています。

心理学科は、まもなく創設70周年を迎える、日本の心理学科のなかでも有数の歴史と伝統を誇る学科です。本学科には、科学的で実証的な方法論を基盤とした、知覚、認知、学習、発達、社会、産業、臨床といった心理学のほぼ全領域をカバーする教員が在籍し、その研究と教育をおこなっています。また、心理学科では、2018年度より国家資格「公認心理師」の受験資格取得に必要な科目を開講します。

映像身体学科は、本学部の創設と同時にできたまったく新しい学科です。この学科では、既存の多様な表現分野（映画、演劇、写真、舞踊、テレビ、身体技法、等々）についての分析と総合を学びつつ、それを通してまさに批判と創造の諸条件を探求することが何よりも求められます。これは、実践系、制作系、理論系の違いを超えた、本学科で学ぶ者にとっての共通の課題です。

大学で学ぶ意義は、以前とは異なり、かなり変化しているように思われます。社会において個人の存在がより尊重されることと歴史において諸学問がより発展することとは、実は密接に関係しています。

立教大学は、大学生活においてまさに皆さん一人一人の学び続ける能力を育もうという教育理念のもとに、2016年度から、RIKKYO Learning Styleに基づくカリキュラムをスタートさせました。その中心にあるのは、卒業のための分野や単位習得のための科目といった理解ではなく、各自の人生において学び続ける力を、単に適用する能力としてだけでなく、とりわけ形成する能力としても身につけることの大切さです。それぞれの皆さんが、このことを最大の目標として本学部で学ばれることを期待します。

EGAWA Takao
江川隆男
立教大学
現代心理学部
学部長

Contemporary Psychology

「ひと」と「こころ」を理解し、表現する。新たな学問体系としての現代心理学。

Introduction

現代心理学部とは

現代心理学とは何か

今日、科学の進歩とともに、「ひと」の捉え方が大きく変化しています。例えば、「ひと」の「こころ」は、もはや心臓のそばにある決して触れることのできない神秘的なものではありません。むしろ、脳と身体において表現される機能として捉えられ、最新の技術をもとに盛んに研究が行われています。また、インターネットの普及により、「ひと」と「ひと」とのつながりは、驚くほど早くて近いものになりました。ある個人が持つ思考やアイデアは様々なメディアを通じて簡単に発信され、それが瞬く間に伝わり共有されます。このように「ひと」や「こころ」を取り巻く学問や社会の枠組みが大きく変化する中で、「ひと」の「こころ」を扱う学問もまた大きく変わる必要があります。

現代心理学部では、このような現代社会において「ひと」と「こころ」が何を感じ、何を生みだすのかを体系的に学問することを目指します。そのために、「心理学」、「身体学」、「映像学」の3つの柱[*1]を持ちます。

3つの柱

「心理学」、「身体学」、「映像学」の3つの柱は、それぞれ重要な役割を果たします。

心理学 心理学は長年にわたり、「こころ」と行動を探求し、サポートする学問として成熟してきました。本学部では、脳と身体において表現される「こころ」の仕組みと機能を科学的に探求・理解する[*2]と共に、現代社会において生じる多種多様な「こころ」の問題を理解し、サポートする[*3]学問として心理学を学びます。

身体学 「ひと」と「こころ」は、目や耳、手や足など身体を通じてのみ、周囲の環境から情報やメッセージを受け取り、働きかけることができます。このような観点から身体の役割を考える学問が身体学です。哲学や精神医学の領域から身体の意義・機能についてアプローチをするほか、舞踊やダンスなどの身体表現を通じて[*4]、「ひと」と「こころ」が表現される過程も探求します。

映像学 映像は、個人がそれぞれ固有に有する体験やアイデアを可視化し、また記録・保存することを可能にします。そのため、「ひと」や「こころ」を表現し、また他者と共有する最適なツールとして、今日必要不可欠なものとなっています。本学部では、最新の技法を用いた映像の作成[*5]、鑑賞、評価を通じて、「ひと」と「こころ」の表現者としての役割を学問的に追求します。

心理学科と映像身体学科

本学部は、主に心理学を扱う心理学科と、身体学・映像学を扱う映像身体学科の2つの学科により構成されます。心理学科はサイエンス（科学）として「ひと」と「こころ」を探求する役割を担います。一方、映像身体学科はフィロソフィー（哲学）、アート（芸術）として「ひと」と「こころ」を理解・表現するという特色をもちます。

心理学科では実験調査実習、映像身体学科では演劇、映像制作といったように、それぞれ学問的な実践を行う体験型の講義やワークショップ、演習を積極的に繰り広げています。さらに両者は密接に相互作用しており、学部共通科目を通じて各々の視点や考え方をバランス良く学びます。これらの講義は、第一線で活動する多彩な教授陣によって、常に最新かつ独自の視点から展開されています。さらに、フィールドワークや企業との連携プログラムなどを通じて、社会で起きている事象を体験し、生きた感覚を養う機会を提供します。

このような講義プログラムを通じて、基礎的・実践的な技能と応用的な視点・問題意識をもち、現代社会における様々な職業場面で必要とされるポテンシャルを有した「ひと」や「こころ」を育成することを目指します。

■こころを科学し、人間性を探究する──心理学科

「心理学」はその背景に、哲学や医学、生理学や統計学など、実に多くの研究領域を含む複合的で多層的な学問です。意外に思えるかもしれませんが、心理学では科学的な思考方法が重視されることが頻繁にあります。

たとえば、実験で得たデータを統計学的な手法[*6]で処理し、論理的な分析を加えて結論を導き出すなど、いわゆる人文系の中にあって、きわめて〈科学的な学問〉だということができます。

また、実際の社会や産業の現場、家庭や学校など生活の場面で、人の「こころ」がどのような影響を受けるのかを考えていくのも、心理学の重要な役割です。たとえば、鉄道事故や飛行機事故の原因[*7]を、機械の側からではなく、人間のこころの問題から探り出すのも心理学ですし、部屋の扉にどんな形の取っ手をつければ、人はスムーズに開けることができるのかを考えるのも心理学の役割です。私たちが暮らすあらゆる状況と場面に関心をはらい、人間のこころの動きをていねいに観察して分析をする…。心理学は冷静かつ、とてもヒューマンな学問だといえます。

さらに、いわゆる臨床心理学では、こころの病いを持つさまざまな人と接し治療をします。ますます複雑さを増す現代社会のなかでこころを病む人は多く、公認心理師[*8]、臨床心理士[*9]など心理学を学んだ人が求められるケースも急速に増えています。一方、最近注目をされている認知心理学[*10]という分野は、最先端の脳科学やコンピュータサイエンスとも密接なつながりをもち、心理学の新たな可能性を広げています。

現代心理学部のある新座キャンパスには、最新の実験設備やその他さまざまな施設が用意されています。臨床心理学においては、「心理教育相談所」が設けられ、地域の利用者を対象とした臨床活動が行われています。

■人間の知覚・身体・記憶を新たな表現に──映像身体学科

「映像身体学」はまったく新たな学問です。その名前が示すとおり、映像と身体を融合的に取り扱うハイブリッドな学問ですが、単に映画創作や演劇創作のための職業的な専門学科ではありません。

ここで最も特徴的なのは、映像表現と身体表現のそれぞれ背後に広がる人間の思考行為と表現行為に、これまでの人文系の学問にはない徹底した〈分析と創造の目〉を向けることにあります。

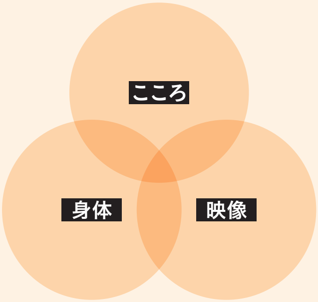
したがって、この映像身体学科では、映像表現と身体表現の双方から生み出され、提起されてくるさまざまな問題を──、あるときは、映像や演劇・ダンスなど、最先端の表現現場で活躍する現職のクリエイターでもある教員から実践的・手法的に学び、あるときは、映像と身体に関わる哲学・心理学・言語学・精神分析学など多様な領域の研究者である教員から徹底した緻密さで理論的に学びます。

また、そうした、映像と身体に関する「理論と実践」の絶え間ない反復に加えて、急速に進むデジタルテクノロジーの発達にも先見的な関心をはらい、人間の知覚や表現の可能性をさらに広げることになるであろう、超高精細映像[*11]やモーションキャプチャー技術[*12]に関する次世代へ向けた最先端の研究も積極的に行います。

映像身体学科では、上記のようなさまざまな活動を可能にするために、多くの最新の設備と機材を備えています。国内でも有数の設備を誇る映像系授業のためのシアター型教室をはじめ、演劇やダンスの練習・公演を可能にする身体表現系授業のためのシアター教室。さらに、撮影スタジオや最新の映像編集設備など、他には類例を見ない充実した環境がそろっています。

ここから、明日の映像クリエイターや表現者が次々と誕生し、映像身体学という新たな学問の世界が広がっていくのです。

*1 3つの探求の柱：こころ、身体、映像



*2 サイエンスとしての心理学
人間が音源の位置を判断する精度を測定する心理学実験

*3 コミュニケーション促進のためのワーク
自己表現と他者理解に関する体験学習（臨床心理学）

*4 自由で創造的なもの＝身体
本学のロフトでダンスの練習を行う学生たち

*5 機械による知覚＝映像
学生による最新型カメラを用いた撮影風景

*6 統計学的な手法
データを数値で表して、現象を記述したり、数値を分析して一般的に起きていることを推測したりする方法。実証的、科学的に研究するために必要な手法である

*7 鉄道事故や飛行機事故の原因
心理学では、事故の原因となるような人間のミスや違反について、その要因や防止対策を実験や調査を用いて研究している（写真提供／共同通信社）

*8 公認心理師
日本初の心理職の国家資格である。心の健康の専門家として活躍が期待されている。

*9 臨床心理士
財団法人日本臨床心理士資格認定協会が、1988年から認定制度を発足させた資格。臨床心理学の知識や技術を用いて心理的な問題を取り扱う、心の専門家の資格である

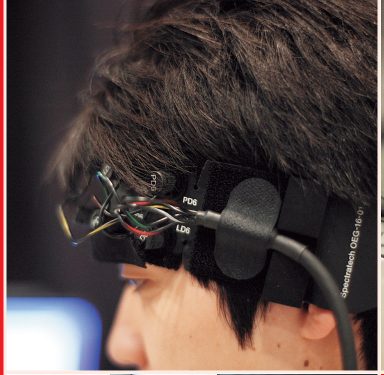
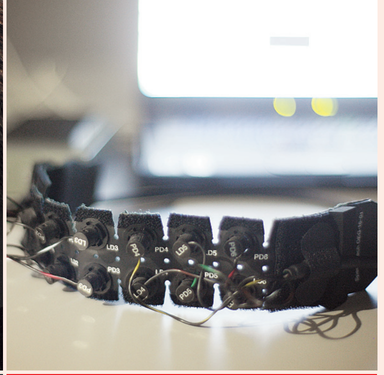
*10 認知心理学
認知とは記憶・注意・思考・言語・学習などの知的な過程。認知心理学は、コンピュータ科学、神経科学、言語学などとの学際的な研究を行う最先端の心理学。日本認知心理学会第7回大会は本学で開催された（右ポスターは、本学部学生の作品）

*11 超高精細映像
画面の解像度が現在のハイビジョン放送を大幅に上回る「4K／8K映像」など最新のデジタル映像システムをいう。次世代の「多目的・超臨場型・大画面」映像として現在実用化へ向けた研究が進んでいる。写真は新座キャンパス・ロフト2に設置されているソニー製・最新型4kプロジェクター「SXRD」（写真提供／ソニー株式会社）

*12 モーションキャプチャー技術
複数台の赤外線カメラなどによって人間の動きを3次元データとして計測し、コンピュータ画像技術を用いて映像として再構成する技術。ゲームソフトの製作や障害者のための義手義足などの機能デザインにも使われる

心理学科

Psychology

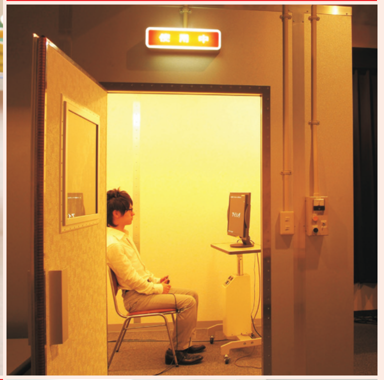



こころを科学し、こころを育て
こころの知を探究する

心理学科とは

Introduction

心理学科の学士課程では、学生が以下の必要な知識・能力・技能を身につけます。
1. 心理学に関する文献を理解するために必要な、心理学の歴史、主な研究領域、学説、統計手法に関する基礎知識と英文読解力。
2. 心理学の基礎・応用に関連する研究あるいは実践活動を遂行するために必要な、実験・調査・面接・テストを実施する技術と、研究や調査を計画・立案する能力。
3. 社会、企業、組織、地域、家庭におけるさまざまな問題解決に、心理学の知識と方法論を応用する能力。



学びの特徴

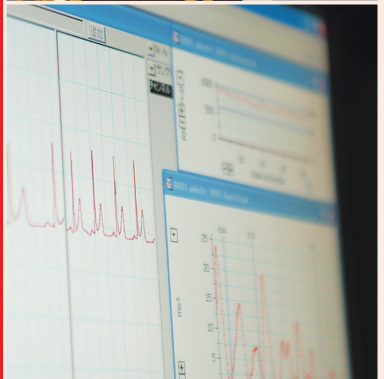
Characteristic

心理学科では、視覚実験のための暗室や聴覚実験のための防音室を備えた15の学生実験室をはじめ、多様な実験設備、コンピュータ、統計ソフトなどを用意しています。また、専任教員の専門領域は、基礎的心理学分野から応用心理学分野、臨床心理学分野に及び、幅広く心理学全般を学べる学習環境が用意されています。心理学の基礎文献を理解できるよう、心理学概説、統計法、心理学文献講読などの講義科目を用意しています。また、心理学の専門的実践活動に必要なものとして各種心理学演習、実験調査実習、心理学研究法などの授業科目があります。

育てたい人間像

Image of Person

心理学科では、心理学に関する知識・能力・技能を身につけ、現代の多様な社会環境の中で、「人間とは何か」を問い直すことができる有為の人材の育成をはかります。3年次以降自ら選んだテーマに応じたゼミに所属し、「教えられる」から「自分で学ぶ」環境に移行します。4年次では、集大成として卒業論文の作成を行います。以上の経験は、一般企業（企画・広報・商品開発・人事）、公務員（心理職）、大学院進学（基礎心理学・応用心理学・臨床心理学）など多様な進路の中で役立てられ、社会のさまざまな分野で活かされることになります。



Psychology

カリキュラム

Curriculum

必修科目	言語教育科目	言語A	英語
		言語B	ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、スペイン語から選択
	専門必修科目		現代心理学入門、キャリアと心理学、心理学概論、心理学統計法、心理学実験実習1、心理学調査実習1、心理学文献講読
選択科目	全学共通科目		学びの精神、多彩な学び、スポーツ実習
	専門教育科目	学部統合科目	学部統合科目1〜4
		学科選択科目A	心理学演習
		学科選択科目B	知覚心理学、学習心理学、認知心理学、生理心理学、比較心理学、発達心理学、教育心理学、感情・人格心理学、社会心理学、産業・組織心理学、臨床心理学概論、家族心理学
		学科選択科目C	心理学研究法1〜4
		学科選択科目D	実験的行動分析、応用行動分析、言語心理学、文化心理学、神経心理学、動物生態学、児童心理学、青年心理学、学校心理学、精神疾患とその治療、社会病理学、心理学的支援法、司法・犯罪心理学、リスク心理学、消費者心理学、コミュニティ心理学、心理学特講1〜4（海外研修科目を含む）、障害者・障害児心理学、健康・医療心理学、福祉心理学、人体の構造と機能及び疾病
		学科選択科目E	卒業論文指導演習、卒業論文、卒業研究指導演習、卒業研究
自由科目	自由選択科目（心理学実験実習2、心理学調査実習2、心理学原書講読、英語文献講読演習、英語表現演習、英語ディベート、短期海外留学プログラム、社会調査士関連科目、情報処理）、全学共通科目、言語自由科目、映像身体学科科目、他学部科目、5大学単位互換科目ほか）		

シラバス検索： https://sy.rikkyo.ac.jp/timetable/stop.do

学生紹介

Student

TOYONAGA Akira
豊永 晶（心理学科／2年）
成蹊高校（東京都）出身

自分が何に興味があるのか､経験を通してじっくり学ぶことができる

中学、高校と吹奏楽部に所属しており、部活の友人や後輩から何回か相談を受け、アドバイスしたり、一緒になって考えたりするような経験があり、相談相手の力になれる技術がほしいと思ったことが心理学を学ぼうと志したきっかけです。

この学科には心理学の様々な分野の教授がいらっしゃいます。そのため心理学に漠然とした興味しかない人も、心理学の分野内で興味を持てる学問領域を見つけることができます。

大学はそれまでの学生生活と違い、個人の自由度が大変高いです。ただ、充実した時間になるかどうかも自分の心構え次第です。新しいことを始めて自分の新たな一面を探すもよし、今まで続けてきたことをさらに継続して高みを目指すもよし。ぜひ充実した学生生活を送ってください。

PICK UP!

比較心理学

心理学におけるカウンセリングなどの臨床系とは異なり､実験と研究を行う基礎分野の心理学講義です｡動物の行動や認知を研究し､それと比較して人間の行動や認知について考える心理学領域です｡

豊永晶さんのスケジュール（2年次）

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1限（9:00〜10:30）			比較心理学		リスク心理学
2限（10:45〜12:15）				学習心理学	生命の科学
3限（13:15〜14:45）		心理学研究法	実験的行動分析	心理学実験実習	青年心理学
4限（15:00〜16:30）		オーダーメイド医療最先端	音楽と社会	心理学実験実習	学部統合科目3
5限（16:40〜18:10）				心理学実験実習	
6限（18:20〜19:50）					

Psychology

授業 Class

基礎 心理学実験実習1／日高聡太（心理学科准教授）

心理学は文系とも理系とも呼びにくい、両者のはざまに位置するような学問です。心理学のそのような特殊な立ち位置は、実験心理学に象徴的に現れています。視覚や聴覚のはたらきにはどのような特徴があるのでしょうか。出来事はどのように記憶されるのでしょう。われわれの行動はどのようなことに影響を受けて、どのように変化していくのでしょうか。このような疑問に対して、心理学は実験という、元来は理系の方法でアプローチしてきました。したがって実験を学ぶことは、心理学の本質を学ぶことに通じると言えます。「実験調査実習1」では、少人数グループに分かれて、ほぼ週替わりのメニューで実験を行い、心理学実験の基本を学んでいきます。各実験にはそれぞれ担当のインストラクターが配置されていますから、きめ細かい指導を受けることができます。また、データ処理やレポートの書き方なども徹底的に指導されるので、ここで学んだことは実験心理学以外の分野に進んでも役立つはずです。

応用 社会心理学／小口孝司（心理学科教授）

携帯電話でメールを交換したり、友達とおしゃべりをしたり、教室で勉強したり、部活をしたり。みなさんが普段当たり前のように行っていることです。こうした行動のほとんどには相手がいます。つまり、みなさんの日常生活は、人と関わりに満ちているのです。こうした人と人との関わりの法則を考えるのが「社会心理学」です。もちろん、クラスでのまとまり、部活でのリーダシップといった集団に関わることや、インターネットや流行といった社会と人との関わりも、社会心理学は研究対象としているのです。

このような「社会心理学」について、基礎的な理論を踏まえつつ、どのように応用していくのかという、「応用社会心理学」に中心をおきながら、講義を展開していきます。授業の中では、TV番組や映画、小説、そしてアニメを例にとりながら、応用社会心理学について解説します。なぜ人は自分のことを話すのか？ 人の個人差にはどのようなものがあり、それをどのように活用することによってよりよい状況を生み出すことができるのか？ など多くのテーマを取り上げます。授業の中では、ときにはさまざまな質問紙に答えてもらいながら、また実験に参加してもらって、講義内容をより深く、楽しく理解してもらいたいと願っています。

臨床 心理療法／林 もも子（心理学科教授）

人は生きていく中で様々な苦しみに出会います。災害、葛藤、病気、喪失など、人の心を苦しめるものに出会わないで生きていられる人はいないでしょう。そして、人は様々な人やものごと、考えた方や感じ方に助けられながら、その苦しみを乗り越えていきます。人を助けるもののひとつに、心理療法があります。日常生活の中で周囲の人にうまく助けを求めることができない人、周囲の人がどうやって助ければいいかわからなくなってしまった場合などに、心理療法家という専門家が登場します。

心理療法には様々な学派、理論、技法があります。この授業では、様々なアプローチをビデオや本になっている事例などをとりあげながら、考えていきます。個人、家族、集団、イメージ、言葉、身体、認知、情動、行動など、多様な視点から作り上げられてきた心理療法があり、それらを貫くものとして、心理療法家と相談者との人間関係があります。この授業を通じて、人間の複雑さとしなやかさ、強さを少しでも感じていただければと願っています。

トピックス Topics

公認心理師について／松永美希（心理学科准教授）

現代心理学部心理学科では、「公認心理師」資格の受験資格取得に必要な科目を2018年度より開講しました。本学科でそれらの科目を修得することで「公認心理師」の資格取得を目指すことが可能です。

公認心理師とは

「公認心理師」とは、「公認心理師法」(2017年9月15日施行）により定められる日本初の心理職の国家資格です。資格取得者は、心理学に関する専門的知識や技術をもって、医療、保健、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働分野において、心の健康に関する専門家としての活躍が期待されます。

公認心理師になるには

これから大学に入学する皆さんが、公認心理師になる方法は、大きく分けて2つあります（図1）。一つは、大学での4年間で指定の科目の単位を取得したあとに、省令が定めた機関（病院や教育機関、福祉施設など）において、定められた年数の実務経験を積む。そのあとに、資格試験に合格する。

もう一つは、大学院（前期課程2年間）まで進学して、大学院でさらに必要な科目の単位を取得したあとに、資格試験に合格する方法です。本学大学院（現代心理学研究科臨床心理学専攻）では、公認心理師の受験資格に必要な科目を取得することができます。またさまざまな領域や対象者に対する心理的支援を実践的に学べるような、充実した実習体制が整備されています。

本学科で学んで公認心理師を目指すには

1年次より、公認心理師の受験資格に必要な科目を履修する必要があります。また、少人数での演習や専門機関での実習が必須となるため、2年次末に演習・実習科目の履修について選抜を行います。具体的な選抜方法については，入学後のガイダンスなどにて説明します。

図1 公認心理師の資格取得の流れ

- 学部（大学4年間）で指定された科目の単位を取得 → 省令で定められた施設において一定期間の実務経験 → 公認心理師試験 → 公認心理師資格
- 学部（大学4年間）で指定された科目の単位を取得 → 大学院（2年間）で指定された科目の単位を取得（本学大学院は指定を受けています）→ 公認心理師試験 → 公認心理師資格

フォーカス Focus

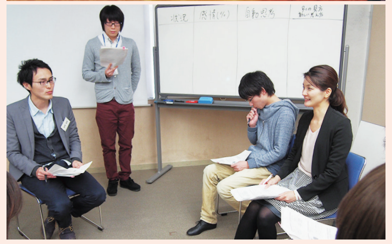
こころの健康の維持に役立つためには／松永美希（心理学科准教授）

こころの問題＝個人の内面（性格など）の問題、というイメージを持っている人が多いかもしれません。しかし、私たちのこころの健康は、個人だけではなく、個人を取り巻く人々との関係で成り立っていることも忘れてはならないでしょう。

写真（上）は、新人教師のストレスに関する研究を行い、教育委員会に研究成果を報告しているところです。こころの健康維持について、組織ぐるみで取り組んでもらえるように施策を提案しています。

写真（下）は、集団心理療法（集団認知行動療法）を医療現場で働く人たちに指導しているところです。心理士が少ない地域では、カウンセリングを大勢の人に提供できないこともあります。その点、集団認知行動療法は、より多くの人にサービスが提供できるとともに、悩んでいる人同士のサポートを活用した働きかけも可能です。

このように、私は、人々がこころの健康を維持・増進できるように、個人に効果的に働きかける方法に加えて、集団へ働きかける方法や、集団の力を活かす方法についても研究を進めています。



Psychology

■ 進路 Course

2015〜2017年度心理学科卒業生 進路先（一部）

・日本航空	・リコー	・資生堂ジャパン	・日本オラクル	・大和総研グループ	・家庭裁判所調査官補	・学習院大学大学院
・全日本空輸	・セイコーウオッチ	・敷島製パン	・ヤフー	・みずほフィナンシャルグループ	・東京都（心理職）	・上智大学大学院
・東日本旅客鉄道	・理想科学工業	・コスモ石油	・マクロミル	・三菱東京UFJ銀行	・警視庁	・東京学芸大学大学院
・京王電鉄	・花王	・武田薬品工業	・インテージ	・三井住友銀行	・東京大学大学院	・筑波大学大学院
・ロッテ	・ジョンソン・エンド・ジョンソン	・第一三共	・日本電気	・りそなホールディングス	・立教大学大学院	など

■ 卒業生 Graduate

さまざまな経験から本当にやりたいことが見えてくる

心理学を学ぶにあたっては、嫌でも統計学の理解が必要になりますが、学科の授業では想像していたよりもずっと理解しやすかったです。加えて、データ分析におけるPC操作についても講師陣がしっかりと面倒を見てくれたので、データサイエンスへの苦手意識がなくなりました。消費者心理学の授業では、人が購買に至るまでのプロセスを中心的に学びました。人の心理に端を発しているので心理学科生にとって間口が広く学びやすかったです。

所属ゼミは都築教授の認知心理学のゼミを選びました。そこでマーケティングや消費者行動学の知見を深め、広告業界に興味を持ちました。大学での学びを直接活かせることや、幅広い事業領域などを基準にいまの会社を選びました。

大学では自主的な行動が大切です。誰かが自分の進む道を示してくれるわけではありません。夢や目標などが無くても、さまざまなことに手を伸ばすことで見つかることもあります。趣味から始めるのも良いと思います。そして見つけたら、それに大学生活を注ぎ込むことをお勧めします。

まだ研修中ですが、幅広い事業領域に今までの学びをどう活かしていけるか楽しみです。

TSUMURAYA Shousuke
圓谷将祐（2018年卒業）
株式会社電通テック
総合職

■ Q & A

Q.1
どのような人材を育てたいのですか？

A.1
実証的・科学的な思考法と方法論を学ぶことによって、客観性と論理性をもつ人を育てます。同時に、人間学的・臨床的な視点・姿勢を学ぶことによって、豊かな共感性を備え、多様な人間関係を構築する人を育てます。

Q.2
教員の専門は、どのような領域ですか？

A.2
臨床心理学、コミュニティ心理学、健康心理学、精神分析学、家族心理学、社会心理学、産業心理学、発達心理学、認知心理学、比較認知心理学、学習心理学、応用行動分析学、知覚心理学など、基礎、応用、臨床の各分野を幅広く網羅しています。

Q.3
実験・実習は、どのような内容ですか？

A.3
音源の定位、短期的な記憶、心的イメージの回転、脳・身体の生理的反応の測定などに関する実験や、質問紙調査、心理尺度の開発、行動の観察、発話の分析などに関する調査にいたるまで、興味深い内容を幅広く実習します。

Q.4
施設・設備は充実していますか？

A.4
学生実験室が 15 室あり、さらに認知情報実験室、人間工学実験室などの個別実験室には、眼の動きや生理反応の計測を可能にする最先端の専用設備も導入されています。また、動物の実験棟、心理相談のための施設も備えています。

Q.5
どのような就職実績がありますか？

A.5
心理学の知識や技能を活かした、幅広い進路実績があります。たとえば、一般企業における商品開発や人事関係の職種、公務員の心理職などです。また、臨床心理士や研究者になるため、大学院進学をする学生も多くいます。

Q.6
公認心理師と臨床心理士の資格に興味があります。

A.6
公認心理師は、トピックスでも紹介したように、日本初の心理職の国家資格です。本学科では、2018 年度より受験資格に必要な科目を開講していますので、それらの単位を取得することで受験可能です。また臨床心理士も、心理的援助の専門家で、本学大学院（臨床心理学専攻）に進学することで資格試験に必要な科目を修めることができます。

■ 専任教員 Staff

OISHI Koji
大石幸二
（教授／学科長）
障がい児（者）心理学
応用行動分析

専攻分野は、「障がい児（者）心理学」「応用行動分析」です。発達援助や特別支援教育の領域で応用行動分析の研究と実践を行い、現場実践に関する課題解決を目指しています。保育士や教師、家族を支える専門職として社会貢献できる人材を育成したいと思っています。他者との関わりを通じて自身を磨きたい方は、ぜひ立教へ。

OGUCHI Takashi
小口孝司
（教授）
社会心理学

人と人とがどのように関わるのかを考える「社会心理学」をベースにして、どうしたら人が生き生きと働くことができるのかを考察する「産業・組織心理学」、観光での人と人との関わり方を明らかにする「観光心理学」などについて研究しています。最初はちょっと難しいかもしれませんが、一緒に研究を楽しんでいきましょう。

TSUKAMOTO Shinichi
塚本伸一
（教授）
発達心理学
教育心理学

専攻分野は発達心理学、教育心理学です。特に「幼児期・児童期の社会性の発達」、「児童生徒の学校不適応」、「教師—児童生徒関係」などの問題に関心をもっています。立教の充実したカリキュラムや施設で、一緒に子どもの、そして自分の「心の謎」を解き明かしてみませんか。

TSUZUKI Takashi
都築誉史
（教授）
認知心理学
社会心理学

人間の知的能力（高次認知過程）に関する実験的検討とモデル構成が、主な研究テーマです。具体的には、意思決定、言語理解、記憶に関して、研究を行っています。消費者行動と関連した意思決定、電子機器を用いたコミュニケーションにも興味があります。希望と努力を忘れずに、仲間と切磋琢磨して目標を実現してください。

HAYASHI Momoko
林 もも子
（教授）
精神分析学
臨床心理学

専攻分野は、心理療法と成人のアタッチメントです。クライエント中心療法と精神分析的精神療法の二つを主に学び、実践してきましたが、最近、統合的な心理療法に関心を持っています。アタッチメント理論は、援助的で人の成長を促すような人間関係について考える基礎となる理論です。

HORI Koji
堀 耕治
（教授）
実験的行動分析
学習心理学
＊2019年3月退職予定

専門分野は学習と行動です。ヒトであれ動物であれ、彼らの行動には「理由」があるはずです。理由の見つけ方は、しかしひとつではありません。心理学の世界だけを見ても多くのアプローチがあります。私は、どこまでも科学的な客観性にこだわって、いわば理系のアタマで行動の理由を探り、できればそれを見つけたいと思います。

ASANO Michiko
浅野倫子
（准教授）
認知心理学
実験心理学

例えば今あなたが目にしている文字は、考えてみれば単なる線のかたまりです。それなのに文字だと分かり、読めて、意味が伝わるのはなぜでしょう？ このように、人間が見たり、聞いたり、触ったりして得た情報を頭の中で処理し、物事を認識したり、それに応じて行動したりする仕組みに迫る、「認知心理学」を専門としています。

HIDAKA Souta
日高聡太
（准教授）
知覚心理学
実験心理学

私が専門にしている知覚心理学は、普段はあまり気がつかないような見えかた・聞こえかたなどを発見・利用して、ヒトが外の世界の知覚を脳の中で作り上げる情報処理のプロセスや仕組みを明らかにする学問です。是非一緒に、新しい現象に出会う驚きと、データをもとにヒトの脳の仕組みを考える楽しさを体験しましょう。

MATSUNAGA Miki
松永美希
（准教授）
臨床心理学
認知行動療法

こころの問題は、さまざまな要因が関係しますが、私はその人がこれまで身につけてきた考え方や行動のクセが影響するのではないかと考えています。認知行動療法とは、それらのクセを見直して、別のものを新たに身につけられるように支援する心理療法です。ぜひ一緒に、こころを健康にするアプローチについて考えていきましょう。

YAMADA Tetsuko
山田哲子
（准教授）
臨床心理学
家族心理学・家族療法

人生の様々な困難や課題と遭遇したとき、人は心理援助を必要とすることがあります。私は、こころの問題を呈したとされる個人だけでなく、その家族などの関係性も視野に入れる家族療法に関心があります。現代の多様化する「家族」に適した心理援助を構築するため、当事者の声をもとに研究を行っています。

HASHIMOTO Kazunori
橋本和典
（特任准教授）
臨床心理学
精神分析的システムズ
心理療法
集団精神療法

自分が変わる、心がタフになることに関心はありますか？私が専門とする精神分析的心理療法とは、心の停滞、崩壊の危機に向き合い、セラピストと協働で、心に潜む葛藤をほぐし底力をも解放し、人生を逞しく生き抜く心の創造的変化を追求する手法です。危機を変化の機会に変える臨床心理学の世界を共に探求していきましょう。

YASUDA Midori
安田みどり
（特任准教授）
コミュニティ心理学
臨床心理学

私たちはさまざまなコミュニティに所属し、多くの影響を受けながら生活しています。コミュニティ心理学は、コミュニティの役割や影響を心理学の観点から掘り下げる学問です。コミュニティの力を活用して、こころの問題を解決したり予防したりするにはどうしたらよいのか、一緒に考えていきたいと思います。

KASE Takayoshi
嘉瀬貴祥
（助教）
健康心理学
パーソナリティ心理学

日常生活のなかで生じる様々な問題を解決するために、人が無意識あるいは意図的に発揮している心理社会的能力である「ライフスキル」について研究しています。ライフスキルが効果的に発揮され、心の健康の維持や向上につながる過程について、性格特性や人生に対する志向性などの概念との関係から検討しています。

KAWAGOE Toshikazu
川越敏和
（助教）
実験心理学・
認知神経科学

「こころはどこにありますか？」というと多くの人は胸に手を当てると思います。古くから「こころ＝心臓」とされてきたのは、驚いたり怒ったりすると心拍が増えて胸が高鳴るからでしょう。しかし近年ではこころは脳にあることが知られてきています。私はこころについて、行動や脳を観察し研究を行っています。

映像身体学科

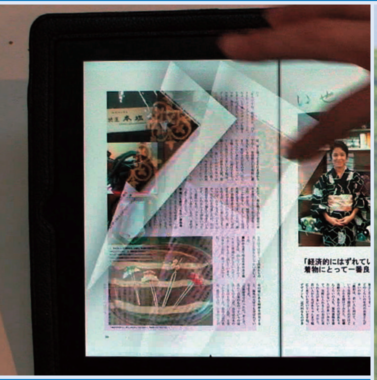
Body Expression and Cinematic Arts

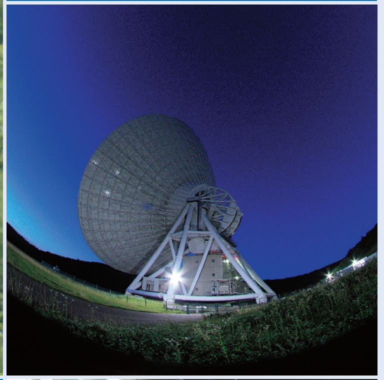
映像と身体の現在を探究する

映像身体学科とは

Introduction

映像身体学科は、身体と映像をめぐる思考・表現を追究する全く新しい学科です。「映像身体学」とは生身の身体が、19世紀以降発展してきた「機械的に生産される映像＝イメージ」との間で繰り広げる様々な相互作用を、その環境（＝自然や社会、そして観念や電子メディアなどのヴァーチャルと呼ばれるものまで含めた）の中でとらえることをめざす21世紀の新しい人間学です。映像や身体表現、哲学などの多様な背景を持つ映像身体学科の教員ばかりでなく学生もまた、生まれたばかりのこの学問を練り上げていくという大切な役割を担っているのです。





学びの特徴

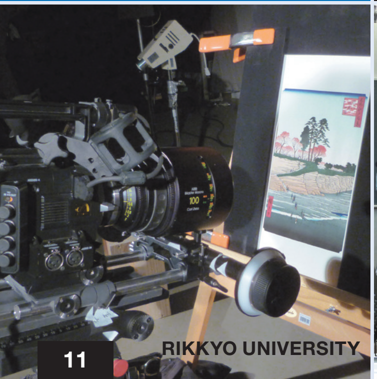
Characteristic

本学科では、身体と映像に関する知識を2本の柱として学びます。まず、身体については、古今東西の身体の思想と技法・医術・表現などの学習を通じて、身体の知を統合的な「身体学」として編み直し、これを身体パフォーマンスと結び付けて、新しい人間学の中心テーマとして考えていきます。映像に関しては、身体や感覚のあり方と密接に結び付いている現代の機械映像の力や可能性を新たな「映像学」として多角的に考究していきます。そして、映像についての知と身体についての知を重ね合わせることで、現代の人間学として大きく展開していくのです。

育てたい人間像

Image of Person

IT化の急速な発展と、それにともなうメディア環境の激変は、今、社会全体に大きな変化をもたらしています。その結果、個人にせよ、地域社会にせよ、企業にせよ、今までのままではいられなくなりました。映像身体学科で身につけた知識と技能と思考は、そうした産業構造の変化をはじめとする、現在起きている動きの本質は何かを見きわめる大きな力となるはずです。本学科で学んだ学生は、まさに生まれつつある新たな社会的・経済的・技術的、そして、自然的環境の中で、時代や社会に流されることなく強いイニシアチブを発揮してくれることでしょう。



Body Expression and Cinematic Arts

カリキュラム

Curriculum

必修科目	言語教育科目	言語A	英語
		言語B	ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、スペイン語から選択
	専門必修科目		現代心理学入門、映像身体学入門、入門演習
選択科目	全学共通科目		学びの精神、多彩な学び、スポーツ実習
	専門教育科目	学部統合科目	学部統合科目1～4
		学科選択科目A	基礎演習
		学科選択科目B	専門演習
		学科選択科目C	アフォーダンス、養生論の思想、フィルムスタディーズの基礎、身体社会論、映像社会論、生態心理学、身体表現史、映像表現史、身体系ワークショップ（演劇）（ダンス）（太極拳）（武術）（気功）、映像系ワークショップ（映画）（映像）（写真）（広告）、超域系ワークショップ、戯曲シナリオ演習、現代演劇論、比較舞踊論、身体人類学、映像の思想、アメリカ映画論、ヨーロッパ映画論、日本映画論、アジア映画論、ドキュメンタリー映画論、写真映像論、映像技術論、ファッションの思想、広告論、次世代メディア論、映像人類学、視覚論、都市の記憶と表象文化 他者の現象学、生命システム論、現代思想概説、身体学文献講読、映像シナリオ演習、映像学文献講読、身体の思想、医学身体論、ジェンダー文化論、ポストコロニアル論、音の思想、芸術の思想、言語芸術論、認知科学、アートの心理学、映像身体学特講、映像技術入門、映像技術中級、舞台技術演習、オートポイエーシス、生態心理学実験、芸術人類学、身体学文献講読
		学科選択科目D	卒業論文・卒業制作指導演習、卒業論文・卒業制作
自由科目	自由選択科目、言語自由科目、短期海外留学プログラム、全学共通科目、心理学科科目、他学部科目、5大学単位互換科目		

シラバス検索： https://sy.rikkyo.ac.jp/timetable/stop.do

学生紹介

Student

HONDA Megumi

本田 恵（映像身体学科／2年）

県立秦野高等学校（神奈川県）出身

さまざまな体験を通して､日々自分の成長を楽しむことができる場所

高校三年生のときに新座のオープンキャンパスでスタジオ棟を見たときに直感で「カッコいい！ここに入りたい！」と思ったのがここを選ぶきっかけになりました。映像身体学って何？とも思いましたが、元々映像や写真には興味を持っていたので、自分にぴったりの学科に出会えたのだと思っております。

映像身体学科の特色は、他の学科ではなかなか受けられない授業が体験できるところです。もちろん座学もありますが、プロさながらの機材で撮影をしたり、踊ったり、お芝居の勉強ができたり。友人たちが目ざす将来も様々なので自分の世界もどんどん広がっていきます。

大学は自分の視野や可能性を無限大に広げられる場所です。悩むこともありますが、自由で楽しいかけがえのない時間です。映像身体学科でしか学べないことを一緒に楽しみましょう。

PICK UP!

映像系ワークショップ4

撮影・編集技術だけでなく、企画段階でのコツや撮影機材について基礎から学べる授業もあります。その授業では映像業界の最前線で活躍してらっしゃる方のお話しを伺うこともでき、大変刺激になりました。

本田恵さんのスケジュール（2年次）

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1限（9:00～10:30）					
2限（10:45～12:15）		ファッションの思想	映像身体学特講4	映像技術論1	学部統合科目1
3限（13:15～14:45）		映像技術中級2	映像系WS4	視覚論	写真映像論
4限（15:00～16:30）		オーダーメイド医療最前線N			スポーツスタディ1
5限（16:40～18:10）		アジア映画論			
6限（18:20～19:50）					

Body Expression and Cinematic Arts

授業 Class

映像 映像系ワークショップ／万田邦敏（映像身体学科教授）

私の授業では、学生たちが小人数グループに分かれて２０分程度の短編劇映画を作ります。そうすることで、映画作りの技術を学ぶだけではなく、映画技術についての思想を深めます。そもそも技術は思想を抜きにしては存在しませんし、思想もまた技術から生まれます。例えば撮影技術の場合、カメラ（スマホでもいいですが）のスイッチを入れてシャッターボタンを押せば何らかの映像を撮れます。そこには技術というほどのことは何もありません。しかし、私たちは日常そんなふうにして映像を撮影していません。写真を撮るときは誰だって、何を撮るか、どう撮るかを考えてシャッターボタンを押します。うまく撮れなければもう一度撮り直します。当たり前の話ですが、ではなぜそれを撮ると決めたのか（なぜその対象を選んだのか。それを選んだことの意味は何か）、それをどう撮るべきかと考えたのか（なぜその画角と角度を選んだのか。その画角と角度で何を表現しようとしたのか）、うまく撮れなかったと思った基準は何か（正解と不正解の境界線はどこにあるのか）、といったことを考え始めると、答えはそう簡単には出てきません。ことは撮影技術だけの問題ではなく、映画作り全般にわたる技術と思想の問題なのです。授業では、それらの答えを実践的に探っていきます。

課題作品のワンシーン

身体 身体系ワークショップ／松田正隆（映像身体学科教授）

この授業では、演劇作品を上演することで、「演劇とはなにか」という問いに向き合うことができればと思っています。と言っても、本格的な舞台作品を上演するというよりも、実験精神に富む、短編作品の試演を目指しています。たとえば、戯曲や小説、詩などの文学作品をテキストとして、あるいはさまざまな都市へのフィールドワークを通しての上演作品や、自分自身とその家族を題材にしたセルフドキュメンタリーのようなパフォーマンスなども考えられるでしょう。具体的には、題材の取材、テキストの読み込みや編集、上演の場所やパフォーマーの選定、リハーサル、映像や音響、美術などとの共同作業が課題となるでしょう。

何よりもこの上演の目的は、上演を企てる側のパフォーマンスとそれを鑑賞に訪れる他者（観客）のまなざしとの関係によって、その両者の身体にどのような「劇」的な感触と変容がもたらされるのかを発見することでもあります。

また、この授業でとくに重視したいのは既存の尺度による作品の完成度よりも、どのような上演を試みるのかであり、それを実現するための熱意ある創造のためのプロセスです。失敗をおそれない自由な発想と粘り強い実践を期待しています。

理論 理論･身体の思想／江川隆男（映像身体学科教授）

この授業では、映像身体学科の学生にぜひ身につけてもらいたい、いくつかの重要な〈考え方〉を提起したいと思っています。それは、単に知識を求めたり、より良い解答を与えたりすることだけではなく、まさに問題を形成する思考の仕方です。具体的に授業でとり挙げられるテーマは、例えば、表現に関する諸問題、それにともなう解釈の意義、身体をもつことの最大の価値、諸芸術の存在の意義、私と他者、感情と知性、言語や記号の問題、日常の過程をいかに理解しているかの重要性、などです。

こうした映像身体学に特異な思考法を身につけることは、社会の既存の諸領域にひたすら適応するためだけの学習ではなく、それら諸領域の只中で批判的で創造的な仕事が可能になるような問う力を養っていくことになります――批判のない創造は存在せず、また創造につながらないような批判はけっしてその名に値しないでしょう！

トピックス Topics

映像身体学科で写真を学ぶということ／日高 優（映像身体学科准教授）

写真は、いわば、カメラという機械の知覚像である映像の起源。私は、そんな写真映像を中心に、映像の本質とそこに潜在する価値を明らかにするべく、研究・教育をおこなっています。

研究として、私は論文を執筆するほか、学外でも活動しています。ギャラリーでトークやレクチャーをしたり、批評家として写真集や写真家の写真展に文章を寄せたり。一例では、2015年は、「リフレクション」展（表参道画廊＋MUSEE F）という写真展に際して、テクストを執筆しました。「リフレクション」展は、「風景に係わる写真家の表現と可能性」を探求する試みとして、2007年から継続開催されていて、私は13年、15年と関わっています。今回も展示前から、ディレクターである写真家の湊雅博氏や出品写真家たち（由良環、榎本千賀子、阿部明子、田山湖雪の四氏）と交流して、作品を巡る思索を深めました。出展作品の選択やコンセプトなどを聴き、どのように一つの写真展が構成され具体化されるのかに立ち会う経験は、有意義です。私はこうした経験を、大学教育に還元しています。

大学では、私は「写真映像論」などの講義系科目のほか、生徒と密にやり取りする少人数制の「専門演習」（いわゆる「ゼミ」）も担当しています。ゼミでは、文献を講読して映像身体学や映像の本質への理解を深めた後、学生の自由発表をもとに、皆でディスカッションします。学生が取り上げる題材は、関心に応じて実にさまざま。具体的には、写真や映画、ミュージカル、ファッション雑誌、ネット動画、ポップ・アートまで。どのような対象であれ、本質から考えるレッスンを積み、自ら有意味な問いを立てて回答していくという、価値創造的な学びを習得していきます。ゼミでは、写真撮影実習の機会も設けたり、学内写真展を開催したりといった活動もおこなわれています。意欲的な学生が多く、教育と研究の両輪で、私自身も大いに楽しんでいます。

（上）「リフレクション」展パンフレット
（中）ゼミ生開催写真展
（下）ゼミ生と最終授業日に

フォーカス Focus

映像と身体を融合するモーションキャプチャー

映画やゲーム映像などの合成シーンで使われる「モーションキャプチャー」という最新の技術があります。これは、複数台の赤外線カメラを使って人物の動きを立体的な3次元データとして記録するもので、いわば「映像と身体動作の融合」です。これを用いると、人間のさまざまな動作を3次元的に解析したり、新たなCG映像を作り出すことができます。映像身体学科では最新の機器をそろえて、映像と身体の関係を深める新たな試みに取り組んでいます。

モーションキャプチャーでは人体の各所にマーキング用の印を貼り、複数の赤外線カメラで人の動作を撮影する。映像身体学科ではダンスやスポーツ競技などを撮影して動作解析をしたり、合成用のCG画像を作り出したりしている

Body Expression and Cinematic Arts

■ 進路 Course

2011～2017年度映像身体学科卒業生 進路先（一部）

・電通	・NHK	・松竹	・NTTコミュニケーションズ	・バンダイナムコ エンターテインメント	・アサヒビール	・本田技研工業	・日本郵政
・博報堂	・フジテレビジョン	・東映	・キヤノンマーケティング	・日本航空	・髙島屋	・JCB	・日本政策投資銀行
・アサツーディ・ケイ	・TBSテレビ	・東北新社	・ソニービジネス ソリューションズ	・東日本旅客鉄道	・楽天	・三菱東京UFJ銀行	・東京都
・読売広告社	・テレビ朝日	・ロボット	・オリンパス	・三越伊勢丹ホールディングス	・富士通	・日本生命保険	・川崎市
・東急エージェンシー	・アクセンチュア	・TYO			・オリエンタルランド	・アイシン精機	・凸版印刷

■ 卒業生 Graduate

夢中で取り組んだ先に、仕事で活かせる力がついた自分がいる

広告代理店の営業として毎日楽しく働いています。どうすればその商品が今の世の中へ受け入れられるのか、どんなアプローチであれば受け手にとって興味深く、面白いものになるのかを常に考えています。私の仕事は、プロジェクトの進行です。クライアントが求めていることを理解し、社内のクリエイティブチームと一緒により良いものをつくろうと励んでいます。

大学時代、佐藤教授の映像制作の授業では、企画から撮影、編集までを実践的に行うことができ、作品をゼロから作り上げる難しさと楽しさを体験しました。また、映画史や写真史の授業で芸術に関する知識を得られました。ものづくりへの理解を深め、現在の仕事で役に立っています。様々な業界でキャリアを重ねた学科の教授たちの経験談なども交えた授業をしてくださるのも、学科の魅力です。

これから大学へ入学を目指す皆さん、自分の趣味や興味についてひたすら追求してください。学生の時間を一秒も無駄にせず、目一杯楽しんでください！

会社のクリエイティブな雰囲気が楽しくて、同僚からは毎日たくさんのインスピレーションをもらいます

OSE Kaede
大瀬 楓（2016年卒業）
Wieden + Kennedy Tokyo
（外資系広告代理店）

■ Q & A

Q.1
映像身体学科の特長は何ですか？

A.1
映像と身体を中心テーマに、〈こころ〉と〈からだ〉について学ぶことです。人間のからだを映し出すのが映像なら、それを見て何かを感じるのも人間です。両者を切り離すことなく考えようというのが、この学科の独自の視点です。

Q.2
映像身体学科の教員の専門領域は？

A.2
映像と身体に関する哲学をはじめ、現代思想、社会学、映画研究、写真論、映像社会論、古代中国思想、精神医学などの専門家以外に、映画監督、演出家、舞踊家、映像プロデューサーなどが教授陣に加わります。

Q.3
映像身体学科は芸術系？人文系？

A.3
芸術的な要素を含んだ授業も多くありますが、本質的な学問系統で言えば人文系です。映像制作や創作ダンスの授業があるのは、創造的な技法を体験しながら人間とは何か、人間に何ができるかをとことん追究するためです。

Q.4
ワークショップは何をやるの？

A.4
この学科では、身体と映像を単に机上の理論的問題とするだけでなく、知覚、思考、表現の素材として駆使する技法を学ぶためです。映像制作、演劇、ダンス以外にも気功や武術、広告などを学生と教員が共に実践する授業です。

Q.5
この学科で行うダンスはどんなもの？

A.5
人間の〈こころ〉と〈からだ〉の関係を学ぶ為の実践としてダンスを取りいれた授業がありますが、そこで展開されるダンスは固定されたものではなく、思考とからだの動きをひとつに連動させておこなうものと考えてください。

Q.6
映像身体学科の卒業後の進路は？

A.6
主には映画、広告、テレビ番組制作などのメディア関係が多く、最近ではWebやモバイル関連の制作、印刷、グラフィックなどへ進む人も目立ちます。金融やメーカーなどの一般企業も多く、大学院への進学者も少なくありません。

― 専任教員 Staff

EGAWA Takao
江川隆男
（教授／学部長）
西洋近現代哲学
身体倫理学

西洋哲学のなかでも、とくに西洋文明そのものに批判的な哲学思想を研究しています。常識に反して考えること、これは難しいことですが、とても楽しいことでもあり、何よりも固定した考え方から自由になれます。それは、批判と創造が一つになることです。新たな考え方、見方、感じ方を作っていきましょう。

MANDA Kunitoshi
万田邦敏
（教授／学科長）
映画演出

私の講義では、一人でもつくれる私的あるいは個人的なモノローグ映画は対象としません。必ずグループで制作する物語映画を対象とします。すなわち、集団作業によって映画を制作します。物語とは、他人を描くということですが、制作の現場にあっても他人との出会いを体験してほしいと思っています。

KATO Chie
加藤千恵
（教授）
古代中国思想史
道教思想史

古代の人々はなぜ仙人という存在を求めたのか、どのようにして不死を実現しようとしたのか、「気」とは何か、母胎でどのように生命が育まれると考えられていたのか、人体宇宙はどこから入っていくのか、といった問題を、中国の道教や医学等の文献や図像の中に追い求めてゆきます。現代を生きるヒントが見つかるかもしれません。

KAYAMA Rika
香山リカ
（教授）
臨床精神医学

映像身体学と精神医学。一見、関連がないように思えるかもしれませんが、その背後には「こころ・からだ・脳」という最もホットな現代的テーマが隠れているのです。私自身は、精神医療の現場での実践を大切にしながら、そこで得た感覚や経験を学生たちに還元したいと思っています。新しい試みに触れる喜びを分かち合いましょう。

SATO Kazuhiko
佐藤一彦
（教授）
映像表現論
デジタルコンテンツ
＊2019年3月退職予定

次世代のデジタルコンテンツの制作手法の開発を進めています。ハイビジョンの4倍の解像度を持つ4K映像や、iPad用電子書籍や空港・駅などに増えてきたデジタルサイネージなどが対象です。最先端技術を臆せず駆使しながら、内容的には日本の文化や歴史など「原理としての日本」を探求する独自の授業を進めています。

SHINOZAKI Makoto
篠崎 誠
（教授）
映画全般

“映画”というメディアが誕生してすでに120年をこえる歳月が過ぎました。CGを筆頭に、映像表現は今なお日々進化しつづけているようにみえます。しかし、たとえどのように技術が発達しても、“映画”は本質的に不自由なメディアです。その“不自由さ”にとことん向い合うところから“表現”がはじまるのです。

TAZAKI Hideaki
田崎英明
（教授）
身体社会論
ジェンダー／セクシュアリティ理論

専門は身体社会論、ジェンダー／セクシュアリティ理論、身体政治論。フランス語、イタリア語、英語で書かれた現代思想・政治哲学・美術理論などを中心に読んでいます。ものを考えるというのは、平らなところで躓き、まっすぐの一本道で道に迷うことに似ています。そのための訓練をしましょう。

NAKAMURA Hideyuki
中村秀之
（教授）
映画研究
表象文化論
文化社会学

映画の研究と教育を専門としています。映画はなぜこんなに魂をゆさぶるのか。社会のなかでの役割や文化にとっての意味は何なのか。私たちの生き方にどうかかわるのか。探究に限りはありません。でも、原点はやはり「感動」です。そして、映画を観て感動することも一種の能力なので、学習によって伸ばすことができるのです。

MATSUDA Masataka
松田正隆
（教授）
演出・劇作

演劇作品の演出と戯曲を書くことを専門にしています。劇のなかで演技をすることはどのようなことなのか、ということを考えてみたいと思っています。そのためには、演劇にまとわりついている常識を疑うところから始めたいとも思います。一人の人間が誰かの前に現れるということはとても重大なことではないでしょうか。

OYAMA Noriyoshi
大山載吉
（准教授）
映像身体学
哲学

主にフランスの哲学や思想を手がかりに、存在、記号／記号、芸術について研究してきました。そこには、知覚、記憶、身体、時間など、「人が生きて在ること」の根源的問題が横たわっているからです。当たり前の「日常的常識」から出発し、思考をドライブさせてその圏域を突破するプロセスを共に味わいたいと思います。

HIDAKA Yu
日高 優
（准教授）
映像文化論
映像身体学

現代社会には映像が溢れていますが、私は人類史上、初めて出現した写真映像を中心に、映像研究をしています。絵画などの視覚芸術についても、本を書いてきました。身体の知覚、カメラという機械の知覚、記憶、時間といった問題を通して、日々生きることと考えることの豊かさを皆さんと共に学んでいきたいと思います。

JAREO Osamu
砂連尾 理
（特任教授）
舞踊
振付
身体表現

ダンス作品の振付と身体表現を専門にしています。世界には様々なダンスが存在しますが、ここでは主に時代や社会の流れと連動して生まれてくるダンスを研究します。パラダイムシフトが起きている現在、ダンスの概念を拡張し、身体の在りようや表現することの意味について問い、その可能性について模索しあえたらと思います。

SOMA Chiaki
相馬千秋
（特任准教授）
演劇
アートプロデュース

舞台芸術のプロデュースを専門としています。すべての人間がアーティストを目指すわけではありません。しかし誰もが他者の表現を受容し、媒介することで、自分自身を豊かに更新することが可能なはずです。それは社会に問いを生み出す原動力にもなります。芸術と社会の有機的循環を生み出す方法をともに考えていきましょう。

YAMADA Tatsuya
山田達也
（特任准教授）
撮影照明技術と実践
映画

イメージをどう映像に焼付けられるか。表現するにはまずはしっかりと見つめる事、そして表現する技術。逆に言えば技術を持てば方法も増え奥ゆきが深まります。学科保有の機材を使い具体的に実践する事から始めます。そして皆さんの「映像表現の引出し」を少しずつ増やして「自分なりの表現」を導き出す力を養いましょう。

EGUCHI Masato
江口正登
（助教）
パフォーマンス研究
表象文化論

演劇やダンスのような上演芸術のみならず、お祭りやスポーツ、日常における振る舞いまで含みこむ、とても広い概念としてのパフォーマンスについて考えています。キーワードは「身体」と「行為」。私たちの誰もが何らかの意味で身体を持ち、行為を行っているのであるならば、これは私たち自身についての問いでもあるのです。

YAMAMOTO Naoki
山本尚樹
（助教）
身体運動発達
生態心理学
＊2019年3月退職予定

私たちの身体行為は日常の些細なものであっても身の回りの環境との密接な関わりのなかで達成されます。そして、この身体と環境の関わりは赤ちゃんの時代から非常に長い年月をかけて形成され、そして今も形成されています。こうした身体の振る舞いの誕生の現場に、みなさんと一緒に立ち会いたいと思います。

海外体験プログラム Study Abroad

現代心理学部では、正課授業の一貫として3つの「海外体験プログラム」があります。

- 期間：夏休み中の2週間〜3週間
- 特徴：立教大学の卒業単位として2単位を付与

短期海外留学プログラム

渡航先：アメリカ（カリフォルニア）

カリフォルニア大学リバーサイド校での授業です。カリキュラムは、英語のコミュニケーション能力を伸ばしてくれる内容です。更にホームステイを通じてアメリカの生活を体験し、海外からの留学生との交流を通して、国際的な感覚と生きた英語が身に付きます。また、ユニバーサル・スタジオやロサンゼルスへのオプショナル・ツアーも楽しめます。

カリフォルニア大学リバーサイド校

ホストファミリーとのひととき

心理学特講4（海外における心理学の展開）

渡航先：ポーランド（ワルシャワ、クラクフ）、オーストリア（ウィーン）

アウシュビッツ ビルケナウ収容所

オーストリア出身の心理学者ビクトル＝フランクルの著書「夜と霧」をもとに、フランクルが体験したホロコーストの場であるアウシュビッツ強制収容所を見学し、ウィーンにあるフランクルの記念館を巡ります。更に、心理学における重要な学者であるフロイトやアドラーの記念館も巡ることで、本プログラムのテーマにある「海外における心理学の展開」を学びます。 ※2018 年度休講

都市の記憶と表象文化

渡航先：アメリカ（ニューヨーク）

ニューヨークブロードウエイ

大都市ニューヨークを訪問し、街を歩き、劇場や美術館を巡ることを通して、都市と文化がいかに相互に触発しあい、形成しあっているか、またその記憶がどのように蓄積されていっているのかを体感的に学ぶことを目的としています。ニューヨーク市立大学でのレクチャーなどもあり、知識と経験の両面からアプローチができます。

キャリア支援のお手伝い Career Support

現代心理学部独自の取り組み

「社会人と話すカフェ」
ベテランの社会人や心理学科、映像身体学科の先生方とカフェ形式で、気軽に仕事や将来のことなどについて語り合います。

社会人と話すカフェ
（学食Forest）

心理学科「キャリアと心理学（正課授業）」
心理学ならではの知識や技能を活かし、カウンセラーや人事関係、公務員の心理職など様々な分野で活躍している方々を招き、講演を行います。

映像身体学科「進路ガイダンス」
過去数年間の学生生の進路や就活、就活中の４年生やメディア系に進んだ卒業生の最新情報など、リアルな情報をセミナー形式で提供しています。

施設紹介 Facilities

キャンパス全体

Cafeteria 食堂

白を基調とした食堂。日替わりの定食メニューをはじめ、丼物や麺類も用意しています。また、学内には2つの食堂の他に、コンビニエンスストアやコモンルームもあります

Chapel チャペル

立教学院聖パウロ礼拝堂。隣に立つ、高さ31mのベルタワーとともに新座キャンパスの象徴的な施設となっています。クリスマスにはキャロリングも行われます

Listening Vessel 大きな耳

心理学研究体験装置のひとつ。パラボラアンテナのような形状で、周囲の音が大きく聞こえる体験ができます。他にもさまざまな装置が学内に配置されています

Yurinoki Hall ユリの木ホール

課外活動施設。学生団体のための部室をはじめ、公演向けのホール、会議室、音楽練習室、和室など、さまざまな活動に対応する施設が整備されています

Building No.6 6号館

研究、教育、情報に関する複合棟。低層部には、図書館やロフト教室、高層部には、学部実験施設や現代心理学部所属の教員研究室が配置されています

Niiza Library 新座図書館

主に観光・福祉・心理・映像身体関係の資料を所蔵する図書館。平日は21時30分まで利用できます。また、池袋キャンパスから資料を取り寄せることもできます

心理学科関連施設

Laboratory Annex 実験棟

心理学に関するさまざまな実験を行うための施設。教員･大学院生が、昼夜を問わず、研究活動に集中できる環境を整えた独立棟です

Center of Educational Testing and Psychological Consulting 心理教育相談所

主に臨床心理に関する実習・研究施設。性格や心の悩みなどの諸問題について、相談・指導、心理療法を行うとともに、これらを通じた実践的研究を行っています

Student Laboratory 学生実験室

主に「実験調査実習」で使用する実験室。視覚実験を行うための暗室や、聴覚実験を行うための防音室など15室の実験室が配置されています

映像身体学科関連施設

Film Studio スタジオ棟

約200㎡の撮影スタジオ。内部を白ホリゾント壁により整備するとともに、照明設備なども整備し、本格的な映画・ビデオ・スチール写真などの撮影が可能です

MA editing room 編集MA室

映像に関する研究用編集室。アナウンスブース併設。ハイビジョン時代の到来、デジタルシネマへの展開を想定し、最新デジタル映像機材を整備しています

Loft ロフト教室

特殊仕様の教室。ダンス・演劇などに対応する平土間仕様（左）と、高性能プロジェクタにより、ハイビジョン作品を視聴できる映写室仕様（右）に整備されています

立教大学
現代心理学部

立教大学 新座キャンパス
〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26

立教大学 現代心理学部ホームページ
http://cp.rikkyo.ac.jp

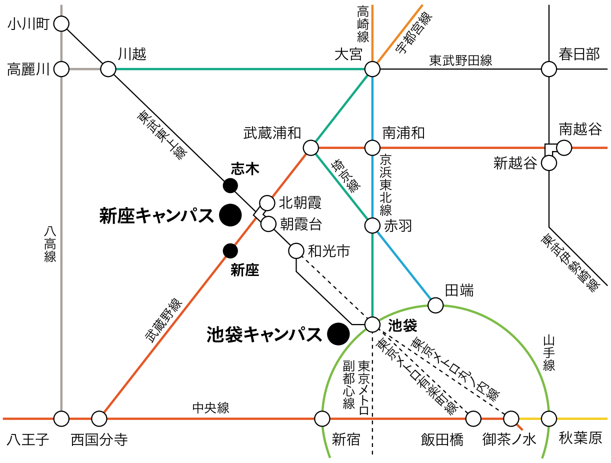
■Cover Collection

■現代心理学部･案内誌の表紙について

このパンフレットでは、例年、現代心理学部ならではの独自のイメージを、表紙デザインに用いています。この数年は、赤と青の服を着た「一人二役の女性」を、新座キャンパス内にある実際の空間に配置し、「人間同士が交わすコミュニケーションの瞬間」をデジタル的な技法で創作し、人間の意識の中に潜在するさまざまな空間像として表現してきました。

今回は、現代心理学部の研究棟である6号館のフロアとフロアを結ぶ結節点としての階段部分を舞台に、本を読みながら未来へ向かって進む二人の人物の向上心と肯定感を表現しました。

■Access



■東武東上線（地下鉄有楽町線相互乗り入れ）利用の場合
「志木駅」下車（池袋駅より急行20分）、
志木駅南口より西武バス〈清瀬駅北口行〉
もしくは〈所沢駅東口行〉「立教前」下車、または徒歩約15分

■JR武蔵野線利用の場合
「新座駅」下車、新座駅南口より西武バス〈志木駅南口行〉
「立教前」下車、または徒歩約25分

□スクールバス
立教新座キャンパスと東武東上線「志木駅」および
JR武蔵野線「新座駅」の間でスクールバスを運行しています。
運行時刻は下記ウェブサイトをご覧ください。
http://www.rikkyo.ac.jp/access/niiza/schoolbus/

■Cover Image

新座キャンパス6号館
Model : TANAKA Yukino

Printed in Japan, 2018.5